

平成25年度に実施した一関市が管理する市道橋の点検結果についてお知らせします。

### 1. 目的

一関市が管理する市道橋は、現在1,226橋ありますが、これらの多くが高度経済成長期以降に建設され、今後建設後50年を経過しようとする橋梁が急速に増加します。

こうしたなか、従来の「対症療法的な維持管理」から「予防保全的な維持管理」へ転換することにより、今後の修繕および架け替えに要するライフサイクルコストを縮減するため、「橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、計画的な修繕工事を進める取り組みを行っています。

### 2. 平成25年度の取り組み

計画策定に必要な橋梁の損傷状況を把握するため、橋梁点検を実施しました。

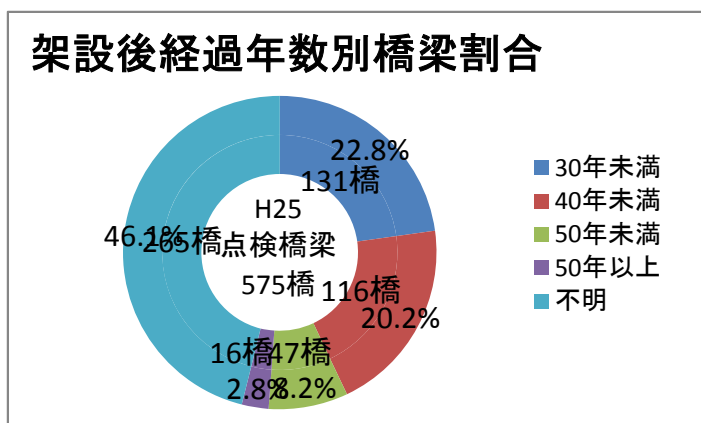
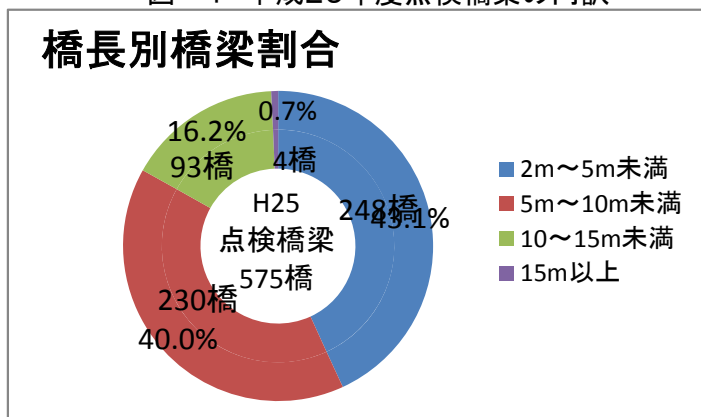
- 橋長15m未満の橋梁890橋のうち571橋を点検しました。
- 橋長15m以上の橋梁336橋のうち4橋を点検しました。

### 3. 点検橋梁の諸元内訳

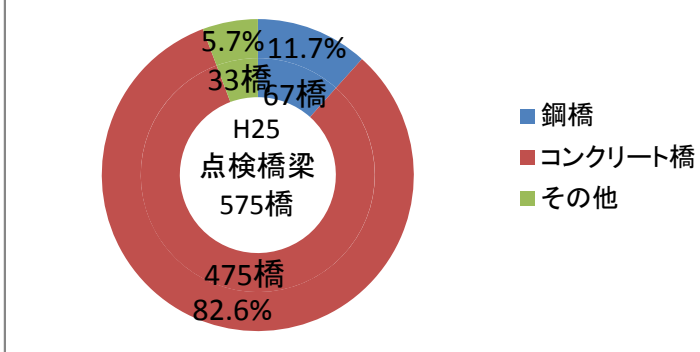
点検した橋梁の諸元内訳は以下のとおりです。

- 15m未満の橋梁では、ほぼ半数が橋長5m未満の橋梁となっています。
- 15m未満の橋梁は、架設当時の設計資料が存在せず供用年数不明の橋梁が約半数を占めますが、これらは架設後30年以上経過していると推定されます。
- 橋長15m未満の橋梁では、橋種はほとんどがコンクリート橋で、鋼橋は1割程度となっています。またその他として木橋、石橋があります。

図-1 平成25年度点検橋梁の内訳



## 橋種別橋梁割合



### 4. 点検結果の概況と対応

コンクリート橋の主桁や床版および下部工に一部鉄筋露出、ひびわれが見られます。また基礎に洗掘を受けている橋梁もあります。

鋼橋は主桁等に腐食が見られましたが、ほとんどが予防保全的修繕が可能な状態です。

木橋の過半が架け換えから相当年経過し主桁・床版に腐食が見られます。

大きく損傷している部材や今後損傷が拡大する可能性がある部材については、早急に修繕を実施していきます。

表-1 点検橋梁の損傷内容

部材	損傷種類	橋梁数	割合	
主桁	鋼橋	腐食	66	11.5%
		亀裂 緩み・脱落 破断	0	0.0%
	コンクリート橋	ひびわれ	18	3.1%
		鉄筋露出	47	8.2%
	その他	ひびわれ	0	0.0%
		腐食	27	4.7%
床版	鋼	腐食	37	6.4%
	コンクリート橋	鉄筋露出	3	0.5%
		ひびわれ	2	0.3%
	木	腐食	36	6.3%
その他 上部工	防護柵	亀裂、破断、欠損	4	0.7%
	地覆	ひびわれ	17	3.0%
		鉄筋露出	28	4.9%
	路面	凸凹	11	1.9%
	伸縮部	凸凹	0	0.0%
下部工	鋼	腐食	0	0.0%
	コンクリート	ひびわれ	48	8.3%
		鉄筋露出	21	3.7%
基礎	-	変状	34	5.9%
支承	-	腐食	18	3.1%
		機能障害	4	0.7%

※H25点検橋梁数 575橋

### 5. 損傷事例(主に多く見受けられた損傷)



主桁の鉄筋露出



主桁の腐食



木橋の腐食



基礎の洗堀(河床低下)



下部工(パイル橋脚のひびわれ)



防護柵の腐食

## 6. 今後の取組み

- 橋長15m未満の橋梁長寿命化修繕計画を策定し、維持管理を実施していきます。
- 策定した長寿命化計画を基に修繕工事を実施していきます。